

幸世の歌



第10回枝幸町乳牛共進会

JA宗谷南

2016NEN
8GATUGOU
~SEASON50~

第10回枝幸町乳牛共進会開催

8月8日歌登乳牛共進会場にて第10回枝幸町乳牛共進会が開催されました。

今年は昨年よりも6頭多い32頭の出品があり、日頃の乳牛改良の成果を競い合いました。審査員にオールジャパンブリーダーズサービスク営業部次長佐藤和彦氏を招き審査が開始されました。

どの牛も甲乙付け難く佐藤審査員も悩んでおりましたが、今年の最高位賞には、経産の部で、小椋義則さん出品の「オムラ ハイロン アツテンバー」、未経産の部で、同じく小椋義則さん出品の「オムラ イツチャン ヤルジヤン」が選ばれました。

また、各部の1位は下記の通りとなっております。

尚、8月27日は道北共進会、9月24日～25日は全道共進会となっております。



審査員
オールジャパンブリーダーズサービス
営業部 佐藤 和彦 次長



第10回枝幸町乳牛共進会結果(各部1位)

部	名 号	出 品 者
1部	オムラ アドバンテージ ミック	小椋 義則
2部	オムラ ゴールドウィン ウエンディ	小椋 義則
3部	オムラ イツチャン ヤルジヤン	小椋 義則
4部	ウチ フレーランド ウェスタン ウエンディ	内田 喜久男
5部	マタドーア アルマーニ イグニータ	赤坂 一弘
6部	ニシキ アンソニー チツブ チャンピオン	赤坂 一弘
7部	オムラ ハイロン アツテンバー	小椋 義則
8部	ウインタープレース AW バレンタイン ミツシー	小椋 義則
9部	JC ルデーシド シヤールツテイ	澤田 和人
10部	ハーバービュー セプテンバー シマー	寺前 吉幸

経産の部		
最高位賞	オムラ ハイロン アツテンバー	小椋 義則
準最高位賞	ウインタープレース AW バレンタイン ミツシー	小椋 義則

未経産の部		
最高位賞	オムラ イツチャン ヤルジヤン	小椋 義則
準最高位賞	ニシキ アンソニー チツブ チャンピオン	赤坂 一弘



未経産牛最高位賞
オムラ イツチャン ヤルジヤン



経産牛最高位賞
オムラ ハイロン アツテンバー

第3回枝幸町新規就農者誘致促進セミナー開催



- 8月18日
- 基調講演：「酪農・畜産をめぐる情勢」
 - 新規就農者からの報告
 - ・発表者：「思惑通りにいかないのが酪農。それが醍醐味」
 - ・発表者：「歌登に来て20年が経って」
 - ・発表者：「1人で就農するきっかけと実際に就農してみた」
 - 枝幸町若手酪農家からの報告
 - ・発表者：「父から受け継いで15年目、私の酪農感」
 - ・発表者：「なんて酪農がやりたいの」
 - 新規就農を目指す研修生からの報告
 - ・発表者：「40歳からのデーリィマンドリーム」
 - 枝幸町の新規就農者への支援体制説明
 - JA宗谷南の研修制度説明
- 8月19日
- 講演：「就農を支援する地域コーディネーターの役割と地域振興」
 - 第1回・2回セミナー参加者からの報告
 - ・発表者：「北海道で学んだこと」
 - ・発表者：「牛飼いになる夢を持ちました」
 - ・発表者：「私がこれまでの酪農ヘルパーと就農希望者を見て思う事」
 - パネルディスカッション
 - 牧場視察（・小椋義則牧場・菅原一人牧場）

農林水産省生産局畜産部飼料課長	富田 育稔 氏
枝幸町歌登本幌別	菅原 一人 氏
枝幸町歌登本幌別	高尾 晃彦 氏
枝幸町音標	浅見 悦子 氏
枝幸町乙忠部	松田 司 氏
枝幸町風烈布	佐藤 良介 氏
枝幸町音標	孫 叡 氏
枝幸町役場 農林課 主査	高橋 宗介 氏
JA宗谷南 営農部 部長	若山 栄 氏
酪農学園大学農食環境学群 准教授	猫本 健司 氏
酪農学園大学2年生	古里 琢磨 氏
帯広畜産大学 大学院生	喜多村 美花 氏
北海道大学 大学院生	福澤 萌 氏

続いて新規就農者の報告として、歌登地区の菅原一人氏による「思惑通りにいかないのが酪農、それが醍醐味」と



農林水産省 生産局 畜産飼料課
富田 育稔 課長

「富田課長には、「酪農・畜産をめぐる情勢」についてご講演頂きました。講演の中で富田課長は、新規就農希望者に向けて、日本における牛乳の需要と供給の状況や、補給金制度、クラスター事業などの国の補助事業や、交付金制度に関する説明、PPP合意に至った経緯など酪農情勢の現状を講演して頂きました。」

セミナーは、農林水産省生産局畜産飼料課 富田課長による基調講演を皮切りに始まりました。

8月18日・19日の両日、歌登フオレストピアホールにて枝幸町新規就農者誘致促進セミナーが行われました。枝幸町新規就農者誘致促進部会会長である向井地組合長は、開会に当たり、「これからの酪農は、後継者不足が大きな課題でもあり、若者がやりたいたいと思うような経営をしていかなくてはいけない、魅せる酪農が必要であり、イメージ作りが大切、また酪農は国家としても重要な産業であり、自立心とやる気があればどのような状況でも乗り越えていける」と挨拶しました。

次に報告して頂いたのは、歌登地区に就農された、高尾晃彦氏で「歌登に来て20年が経って」と題して、妻のマーガレットさんとの出会い、就農に至る経緯、就農後の牛舎環境の確認不足や授精時に近親交配を気にしなかった事などの失敗談を元に就農希望者へアドバイス、また就農には覚悟が必要であるが、就農後3年位でゆとりが持てるし、豊かな自然の中で生活できるのが一番の魅力であると発表して頂きました。

新規就農者からは最後の発表者として、浅見悦子氏から、「1人で就農するきっかけと実際に就農してみた」について、大学生の時に酪農実習で2週間枝幸町で実習したのをきっかけに就農するまでの経緯、さらに時間に縛られるのがあまり好きではなく、自分

の思い通りに時間を使いたいという思いが、1人で就農する覚悟につながった。就農後については、牧草などの飼料は全て購入している。作業機についても必要最小限に留めている事や地域の方々には様々な面でお世話になってはいるが、自分の形態であれば1人でも就農は可能です。と発表して頂き、その後質問タイムでは、搾乳時間に関してや、ヘルパーの利用状況などの質問が飛び出しました。



菅原 一人氏



高尾 晃彦氏



浅見 悦子氏(左)



松田 司 氏

次は枝幸町若手酪農家からの報告として、音標地区の松田司氏(宗谷南青年部副部長)による「父から受け継いで15年目、私の酪農感」について、25歳の時に経営移譲をしてから、28歳の時に80頭牛舎の投資を行い、さらに育成牛を飼養しない形態への転換を決めたときの話や所得向上の為、出荷乳量拡大に至る経緯を説明し、酪農は色々な形態があつて良いし、工夫次第で所得向上が見込める職業であることを発表して頂きました。

若手酪農家からの報告として、最後に、風烈布地区の佐藤良介氏(4Hクラブ会長)による「どうして酪農がやりたいの」について、子供の頃から特に将来の夢もなく、他の職業にも魅力を感じない中で後継者として就農したが、就農後は自由な時間とお金が無く不満が募っていった。そのような中、研修会など積極的に参加して、新規就農希望者と話す機会があり、話を聞いていたうちに「なぜこの人は酪農なんかやりたいのだろう?」と疑問が生じると共に、「自分はなぜ酪農を続けているのか」を考えるようになり、ある日、父親から仕事を任せられるようになり、研修会などで学んだやり方を実践していく中で、やりがいや、楽しさを見出してきて、「やはり私は酪農が好きなんだ」と実感し、改めて酪農を続けている意味に気が付きました。

だから、多くの方にも積極的に研修会などに参加し、新たな出会いと、発見を見つけてほしいと発表して頂きました。

続いて、新規就農を目指す研修生からの報告として、「40歳からのデーリィマンドリーム」として、現在音標地区の笹森牧場で新規就農を目指し、研修中の孫叡氏より報告して頂きました。



佐藤 良介 氏



孫 叡 氏

孫氏は結婚を機に中国から日本へ、名

古屋大学を経て日本で就職しこのままでも幸せな人生が送れるとも思いますが、仕事に追われ、家族と過ごす時間が少ない生活を送っていたので果たしてそれが幸せな人生なのか疑問に思い始めて、起業を考え、色々な業種を夢見ましたが、今の自分でも可能性のある酪農を選択した。しかし農業はまったくの未経験であり不安があったものの、新農業人フェアに参加し、枝幸町に就農する覚悟を決めたと、現在の酪農研修に至るまでの経緯を報告して頂きました。

1日目のセミナーの最後は、枝幸町とJA宗谷南の新規就農者へのサポート面の説明を行い終了しました。終了後は歌登健康回復村へ場所を移し交流会にて情報交換と親睦を深めました。



交流会の様子

2日目は酪農学園大学農食環境学群准教授の猫本健司氏による「就農を支援する地域コーディネーターの役割と地域振興」についての講演から始まりました。

猫本准教授らの実態調査によると、女

性単独で酪農へ新規就農した方はいずれも小規模であり、牧草収穫は外部委託など労力の削減が単身での営農を可能にしており、既存農家や農協などの理解やサポートが受けられている事などが挙げられる。また離農の増加に対し新規参入が追いつかず、単身就農の門戸を広げることが酪農生産量の維持につながるかと考えられる。さらに新規就農を支援する地域コーディネーターについて、道内3町村の就農コーディネーターを例に挙げ、コーディネーターとしては、前職を定年しており、地域に対し発言力がある人物が理想とされ、先にあげたコーディネーターの方々の活躍を紹介してくれました。また、その中でも、婚姻による新規就農について、結婚により就農という数字はどの機関でも把握していないが非常に重要なことであり、先に挙げたコーディネーターの活躍により8組が結婚して、営農継続を可能にしており、就農コーディネーターの必要性を強く感じていると講演頂きました。



猫本 健司 准教授

続いて、第1回、2回セミナー参加者からの報告として、酪農学園大学学生、古里琢磨氏による「北海道で学んだこと」

について、昨年の当セミナーに参加するまでは、酪農には興味があったが、就農したいとまでは思っていなかった。しかし当セミナーに参加し、特に交流会で出会った同年代の酪農家や就農希望者達から話を聞いて衝撃が走った、その後も大学の先輩や、他の研修会など出会った人達の話聞いていたうちに、自分の将来の夢が、酪農家になるという風に変わってきた事を語って頂き、将来は酪農はもちろん、自分の食べる野菜などは自分で生産したいと発表して頂きました。



古里 琢磨 氏



喜多村 美花 氏



福澤 萌 氏

続いて、帯広畜産大学大学院生の喜多村美花氏による「牛飼いになる夢を持ちました」について、以前の酪農のイメージが、365日休みが無い、自分の体力が心配、毎日の搾乳の繰り返しで飽きるのでは? などあまり良いイメージが無く自分は酪農家になれないと思いついていたが、実際に酪農家と接していく中で、酪農は家族で協力して行ける生業、搾乳は牛とのコミュニケーションを取れる時間、地域には同じ酪農の仲間がいる、趣味も楽しめるゆとりある生活が送れるなど、「仕事として酪農をする」ので

なく、「牛飼いと暮らしていく」という考えに変わってきた。「今では酪農家になるのが夢です。」と発表して頂きました。

続いて、北海道大学大学院生の福澤萌氏による「私がこれまで酪農ヘルパーと就農希望者を見て思う事」について、全道の酪農ヘルパーについて色々な調査をしてきて、酪農ヘルパーとして働いている方の多くは、色々な作業体系を見てきており、酪農に対して高い技術を持っているので、酪農家の休日確保の為にただの作業員ではなく、アドバイザーなど確固たる地位があってもよいのではと、自分の意見を発表して頂きました。

最後にパネルディスカッションを行い、新規就農希望者の、不安や不明なことなど多くの質疑応答があり、セミナーが終了しました。

セミナー終了後は、歌登地区の、小椋義則牧場と、初日に新規就農者報告をして頂いた、菅原一人牧場の視察を行い、現場での苦労話や、就農後のアドバイスなどを頂き、第3回枝幸町新規就農者誘致促進セミナーの全日程が終了しました。
ご協力頂いた皆様、大変ありがとうございました。



小椋義則牧場視察風景



菅原一人牧場視察風景



農林水産省生産局畜産部 酪農現場視察

8月18日農林水産省生産局畜産部飼料課富田課長及び企画課菅原係長来町により、枝幸町公共育成牧場視察と家族経営体の酪農現場視察の為風烈布地区の高橋壮治牧場を訪れました。

公共育成牧場の概要と現状を、枝幸町役場農林課の高橋主査が説明し、公共育成牧場の現状を確認し、公共育成牧場を後にし、続いて高橋壮治牧場を訪れ、酪農現場の現状と課題や悩みの話を伺い、今後の酪農対策の一助となるよう高橋牧場視察後、枝幸町新規就農誘致促進セミナーへと向かいました。



枝幸町公共育成牧場視察風景



高橋牧場の現状を説明する高橋慶大さん(右)

組合員親睦交流会

7月29日酪農振興センターにて、組合員親睦交流会を行い、およそ160名の方々が参加されました。雨の中でしたが、焼肉を囲みながら普段なかなか交流の機会のない組合員及びご家族や関係機関の方々と交流を深めました。

交流会の後半には、お楽しみ抽選会も行われ、豪華景品に当選した方は、歓喜の声を上げ、一番牧草収穫の終了後の一時の骨休みを十分に楽しめた事と思います。

また、毎年恒例でありました、パークゴルフ大会は年々参加者が減少傾向にあることから中止とさせて頂きましたが、雨の中多くの方々にご参加頂き心よりお礼申し上げます。



ご臨席賜った来賓の皆様



来賓挨拶を頂いた、枝幸町中野副町長



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトを「ご覧ください」。

JA北海道中央会

平成28年7月に東京都内で農林水産省との意見交換会を開催しました。

「持続可能な北海道農業の確立に向けた政策提案」をもとに、北海道農業の課題や現状を共有し、今後の方向性や対応等について意見交換をしました。

引き続き8月末の平成29年度農業予算概算要求に向けて、働きかけを行うて参ります。



JA北海道信連

平成20年度より、「JAバンク食農教育応援事業」を展開しています。

子どもたちが食・環境等と農業のつながりを意識し農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、JAを通じて道内の全小学校に教材本「農業とわたしたちの暮らし」を贈呈し授業等の中での活用をお願いしています。

本年度は41,136名へ教材本とDVDを贈呈しました。



ホクレン

道内のホクレン給油所において、7月16日から9月30日の期間、店頭給油をしていただいた方を対象としたキャンペーン、「サマーフェア2016」を実施いたします。

7月に公開となった人気アニメ「ワンピース」の映画とタイアップしたキャンペーンの実施により、幅広い年代の方々にホクレンの給油所をご利用いただき、北海道の農畜産物の魅力をPRしていきたいと思えます。



JA共済連北海道

地域社会貢献活動の一環として、交通事故被害者に対する救命活動支援をはじめ、交通安全教室の開催など、交通事故防止等に向けた取り組みを積極的に展開しています。

7月13日に「飲酒運転根絶の日決起大会」が開催され、同決起大会と、大会後、札幌市内において実施されたセーフティコール（街頭啓発）に参加しました。

JA北海道厚生連

「より実践的な家庭内での介護技術の習得」を目的とした家庭介護教室を今年も開催します。安心して暮らせる地域社会の実現に向けたJAの高齢者福祉対策の一環としてJA女性部員の皆さんを対象に取り組んでいます。

今日から使える介護実技と講義等を通じて、家庭介護技術の普及に取り組んで参ります。

授精所だより

暑熱ストレスについて

暑熱対策

乳牛は、多少の寒冷には強いが、暑熱に対しては非常に弱い家畜です。

牛の体内ではルーメン発酵やエネルギー代謝に伴い大量の熱が生産され、その熱を体外に排出しようとして体の表面へ向かう血管を拡張して熱を逃がそうとします。

乳牛の健康や生産に適した環境温度は4〜24度と言われており、それ以上になると体熱放出機能が弱いため生理的ダメージを受け始めます。

暑熱ストレスを受けた牛は、熱の負荷の軽減を図るために採食量を抑制することに至り、乳量低下、乳質悪化などの他に生理機能の低下による繁殖機能の悪化へとつながるようになります。

I 直接的な対策

- 1、熱源を減らす**
牛体に直接日光や反射光が当たらないようにするなど。
- 2、舍内温度を下げる**
舍内換気を良くするなど、舍内の温度や湿度を下げる。
- 3、体感温度を下げる**
牛体に直接風を当て、飲水量を制限しないために、飲水設備に新鮮な冷水を十分に給水するなど。
- 4、湿度を下げる**
湿度が上昇すると、体熱の蒸発量が減少し、飼料摂取量が減ります。

II 間接的な対策

- 1、乾物摂取量低下の防止**
夜間の涼しい時に新鮮な飼料を給与すると採食量が高まります。飼槽の清掃と餌寄せをこまめに行うなど。
- 2、熱生産の抑制**
暑さにより採食量が減るのでエネルギーや他の栄養素の濃度を高める。
- 3、放熱促進**
毛刈りを行うなど。
- 4、蹄の管理**
関節炎や蹄底潰瘍等で起立を嫌う牛は体表面からの蒸散が妨げられます。

参考文献

家畜改良事業団ホーム
山口県畜産試験場ホーム

J A 職員野球大会 宗谷地区予選



7月10日、宗谷地区JA役員連盟野球大会が市内の若葉台球場にて行われました。参加チームはJA宗谷南、JA稚内、JA北宗谷の3チームで、一回戦目はJA宗谷南とJA北宗谷との対戦となりました。初戦はJA宗谷南の先攻、一回表でいきなり3点を取り、好調なスタートを切りましたが、裏の回で2点を奪われ、一点差に。乱打戦になるかと思われましたが、その後は相手のエラーを誘うバッティングやJA宗谷南のエース、藤原魁晟選手がしっかりと相手バッターを抑え、9対2のスコアでJA宗谷南が勝利しました。

決勝戦では、JA稚内とJA宗谷南の対戦。前半は互いの投手が好投し、0対0でどちらも一歩も引かない状態でしたが、四回表、JA稚内に先制を許してしまい、その後も打線が振るわず、0対3で惜敗してしまいました。

今年は残念な結果に終わってしまいました。来年の大会に向け練習に励み、雪辱を果たせるよう頑張ってください。



力投した
藤原魁晟選手



枝幸町夏祭り



8月14日に枝幸町役場前にて枝幸仮装盆踊り、翌15日歌登山村広場にて歌登サマーフェスタが開催され、JA宗谷南青年部及びJA職員が参加し枝幸町の夏祭りを盛り上げました。

仮装盆踊りでは、JA職員が「盆でリング」と題しまして、ホラー映画の「リング」で登場した貞子に扮装し、沢山の貞子が踊りました。またホラー映画「呪怨」に登場した加椰子(高本等)と俊雄君(松永課長)が登場し会場には悲鳴が轟きました。結果は特別賞と言うことで、優勝できませんでした。が、来場していた子どもたちからは好評だったらしく、盆踊り終了後も子供達と交流が行われていました。結果はともかく、参加者・来場者共に楽しめた良い祭りだったと思います。

翌15日は歌登山村広場にて宗谷南農協職員と青年部盟友が歌登サマーフェスタに参加し、ミルクランド北海道グッズの無料配布と一部競技にも参加しました。

当日は午前中まで雨が降っており、開催もあやぶまれましたが、スタッフ達の懸命な整備により開催する事が出来ました。

今回用意した150セットのグッズが無事渡し切れるか不安でしたが、悪天候にもかかわらずたくさんの方に「ご来場いただき、無事完売致しました。」

仮装盆踊り大会



歌登サマーフェスタ



ミルクノート・メモ帳・クリアファイルなどの文房具に牛乳が付きます。人気のミラクルストローも入っていますよ。



雨の中、多くの方がお祭りに参加してくれました。競技も多数のチームが結成され、優勝争いが盛り上がりました。みるきいちゃんは雨の為今回はお休みです。



よくばりフェスタ
であいましょう



枝幸町公共育成牧場 1番牧草収穫作



7月12日～14日にかけて公共育成牧場の1番牧草収穫作業(バンカー)が行われ、JA職員が応援に駆けつけました。
3日間とも天気に恵まれ、予乾も程よくされ、サイレージとして質の良い物が出来ると期待しています。
3日間でダンクおよそ300台が無事詰め込まれ、無事収穫作業が終了しました。

編集委員

村田 太
伊藤 太良
川合 直樹
滝口 直也
森川 忠幸
高本 等
浦谷 正憲